＜慶應看護同窓会 紅梅会＞東京都新宿区信濃町 35 孝養舎内　2014 年 3 月 30 日発行
TEL・FAX 03(3341)8116　URL：http://keio-koubaikai.jp/

紅梅會會報

第 100 号

会長あいさつ

49 回生　藤村　龍子

新しい「甲午（きのえ・うま）」の年を迎え、会員の皆様のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。従来、午（うま）年は雲上の空を駆け巡る天馬のごとく、すべてのことが大きく飛躍して行くことを象徴していると言われてきました。慶應義塾大学の躍進する新春のメッセージは、実学の精神―大変化の時代に求められる「自分の頭で考える力」を掲げています。前進する意思を高揚する年でもありますが、一方では 1 月 17 日に阪神淡路震災から 19 年が、3 月 11 日には東日本大地震から 3 年が過ぎ、見えてきた状況から新たな叡智を結集する年でもありましょう。1995 年以降に誕生した日本災害看護学会の実績が我が国だけでなく世界的な活動に発展・貢献したことはその例でしょう。

昨年の総会において紅梅会という略称を「慶應看護同窓会 紅梅会」という名称に変更し、同窓生以外の方にもご理解いただくようにしました。

今年度は、慶應看護 100 年記念事業活動を具体的にスタートする意味で、皆様に募金活動の趣旨を以下に掲載いたしました。具体的な事業のための募金依頼文書は、改めて 4 月に発送させていただきます。

＜趣意書の概要＞

慶應義塾における看護教育は長い歴史の中で発展しながら今日に至り、2018 年には 100 年という大きな節目を迎えることになります。この間、福澤諭吉先生の建学の精神である「独立自尊」と「実学」を重んじる看護教育は常に変わらず連綿と継承されてきております。さらに、これからの超高齢社会の日本において、人々の健康への関心は増し、ニーズも多様化し、それに応える看護のあり方がますます問われる時代になります。慶應看護はこのような時代を先導する人材を育成し、看護のモデルを示していかなくてはなりません。

紅梅会は、100 年記念事業を通じて、看護医療学部の学生たちが母校の歴史に触れる機会になることを期待しています。また、学部における看護ベストプラクティス（最善の看護実践）の研究、教育に関わる事業が発展することを期待しています。現在、この事業は、質の高い看護ケアの開発、そのケアを先導するリーダーの育成、ならびに倫理的看護実践の充実に向けて動き始めたところです。さらなる事業の発展のためには、健康教育に関わるマテリアルの開発、マテリアルを用いた教育・研修効果の実証、ｅシステムを活用した地域連携によるサポート開発などといった看護ベストプラクティス研究・教育の基盤となるものを強化することが必要なのです。

看護ベストプラクティス研究・教育の基盤強化のめざすところは、創立者が塾生に望んだ「気品の泉源」「知徳の模範」「社会の先導者たれ」という精神に通じるものがあります。これらを実現するために、皆様のご支援を賜りたく、募金活動を実施することに致しました。

皆様には本募金活動の趣旨をご理解いただき、ご協力、ご支援くださいますよう、
何卒よろしくお願い申し上げます。

春号の主な内容

◆2014年度 第71回 総会のご案内 …2ページ
◆慶應義塾大学病院のトピックス …3ページ
◆看護医療学部だより …4ページ
◆第36回 研修会報告 …5ページ
◆世代をつなぐ「Link age」活躍する同窓生 …5ページ
◆学部生の活動 …6ページ
◆同窓生情報 …7ページ
◆名簿委員会からのお知らせ …8ページ

会報発送者数4812名（2014年２月28日現在）

2014 年度

第71回 総会のご案内

今年も母の日に紅梅会総会を開催いたします。

場所は、昨年同様東京ガーデンパレスホテルです。昨年は講演ならびに料理が大変好評でしたので、今年も会員の皆さまに喜んでいただけますように準備を進めております。

過去２年間における講演は、「生き生きと元気に過ごす」ことを目指して、歯の健康（第69回）、更年期の過ごし方（第70回）を取り上げました。今年は引き続き、「足」「歩行」をキーワードに企画いたしました。講師は、慶應義塾大学病院整形外科の須田康文先生です。外反母趾の日帰り手術など、現在脚光を浴びている治療法の第一人者で、楽しく日常に役に立つお話が伺えると思います。

どうぞ、万障お繰り合わせの上、ご参加いただけますように、心よりお待ちいたしております。

（準備委員長 84 回生　江河 都美）

日　時　**2014年５月11日（日）**

午前 10時30分 開会　午後２時 閉会　（午前10時開場）

場　所　**東京ガーデンパレス**　＜会場＞高千穂

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1−7−5
（御茶ノ水駅より徒歩５分
聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏）
TEL 03−3813−6231・6237
http://www.hotelgp-tokyo.com

会　費　**8,000 円**

会場への道順は別紙を参照して下さい。

申し込みについて

＊総会の出欠は同封の葉書で、4 月 21 日（月）までに返信し、同封の振込用紙で 4 月 28 日（月）までに入金をしてください。

＊なお、付添の方が参加される場合の席をご用意させていただきます。また、実費（6,000 円）で付添の方の食事のご用意も承りますので、同封の葉書の通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

＊駐車場割引・宿泊割引があります。直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせ下さい。

プログラム

1. 開会の言葉　黙祷
2. 会長挨拶
3. 報告事項
   - 看護医療学部現状報告
   - 大学病院現状報告
   - 役委員会報告
4. 審議事項
5. 質疑応答
6. 新旧役員挨拶
7. 講演
   テーマ
   「中高年の足のトラブルとその対策
   −いつまでも元気に歩けるために−」
   慶應義塾大学病院
   整形外科　須田康文
8. 会員代表挨拶・乾杯
   会 食
9. 閉会の言葉

慶應義塾大学病院のトピックス

1．2013 年 10 月新執行部スタート

武田純三前病院長の任期終了に伴い、2013 年 10 月より竹内勤新病院長による新執行部がスタートしました。
病院長　：竹内勤（内科学教授）
副病院長：大家基嗣（泌尿器科教授）・北川雄光（外科学教授）・高橋孝雄（小児科学教授）
三村將（精神神経科）・鎮目美代子（看護部長）

2．新病院棟建設事業進捗状況　6 号棟解体；55 年間の建物の労に感謝

新病院棟建設事業は、6 号棟、7 号棟跡地に 2018 年（平成 32 年）2 月の完成を目指し工程が着々と進んでいます。2013 年 8 月から 9 月にかけて、6 号棟と 7 号棟の病棟・外来部分の移転作業が無事終了いたしました。移転先は、改修された 1 号棟、2 号棟を中心としたエリアです。そして 11 月 1 日より、1958 年（昭和 28 年）に竣工され 55 年に渡り使用されてきた 6 号棟の周囲に仮囲いが設置され、解体作業に入りました。10 月 31 日には、6 号棟解体に伴い、安全祈願祭が行われ、建物を祓い清め、これまで長きにわたり、何事も無く無事に過ごす事ができた感謝の気持ちを表すと共に、解体になる事を奉告し、工事が速やかに無事に終了することを祈願いたしました。6 号棟解体作業は 2014 年（平成 26 年）2 月頃終了し、2014 年（平成 26 年）4 月より、いよいよ、新病院棟の建設が始まる予定です。

建設の経過は、病院ホームページ・新病院棟建設事業：http://www.nhwp.keio.ac.jp/　をご覧下さい。

＜新病院棟建設スケジュール＞
・2013 年 11 月～ 2014 年 2 月：6 号棟など解体工事
・2014 年 3 月～ 2015 年 6 月：1 号館（新病院棟）第Ⅰ期建設工事
・2015 年 9 月～ 2016 年 2 月：7 号棟、中央棟北側など解体工事
・2016 年 3 月～ 2018 年 3 月：1 号館（新病院棟）第Ⅱ期建設工事：
・2018 年 5 月～ 2020 年 2 月：1 号館（新病院棟）、
2 号館連絡棟建設工事など
（新病院棟建設準備室 85 回生　梅田光代・学 1 回生　倉橋暖）

6 号棟

＜撮影：新　良太／慶應義塾の建築プロジェクト＞

3．文部科学省大学教育改革推進事業・看護師の人材育成システムの確立「ジェネラリストナースの発達モデル」進捗

文部科学省ＧＰ事業は最終年となり、事業評価、事業の継続を進めております。その中で、2013 年 11 月に慶應義塾大学病院の医療職に焦点をあて、シンポジウム「医療専門職のキャリア開発の潮流」を開催しました。133 名（学内 77 名・学外 56 名）が参加され、各医療専門職のキャリア開発に活発な意見が出されました。この機会を基に、今後、病院組織の職員のキャリア開発支援につなげていきたいと思います。

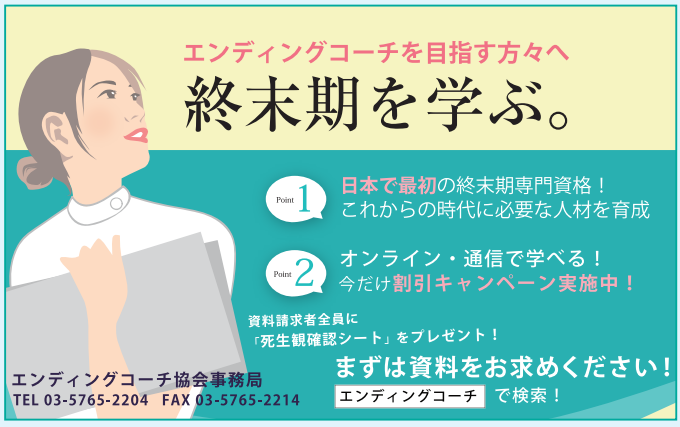
日時：2013 年 11 月 9 日（土）17：00 ～ 19：30　慶應義塾大学信濃町キャンパス　北里講堂
内容：教育講演「キャリア開発のためのポートフォリオの活用」
大西　弘高先生　（東京大学医学部教育国際研究センター講師）
シンポジウム：
・「看護師のキャリア開発支援とポートフォリオ」
加藤恵里子（慶應義塾大学病院看護部教育担当次長・キャリア開発センター長・87 回生）
・「薬剤師のキャリア開発」　池谷　修（慶應義塾大学病院薬剤部 / 感染制御センター　主任）
・「変化はチャンスをもたらす！医学生・医師の支援から他職種に共通したキャリア開発支援へ」
福島裕之（慶應義塾大学病院卒後臨床研修センター副センター長・医学部小児科学専任講師）
＜ホームページ　http://kango-career.hosp.keio.ac.jp/ ＞　（78 回生　鎮目 美代子）

嘱託職員募集

慶應義塾大学病院
予防医療センター看護師

業務内容：人間ドックに関わる健診運営業務
内視鏡介助・問診・受診者フォローなど

問合せ先：予防医療センター看護師採用担当
電話：03−5363−3719（看護部事務室）
E-mail：k-saiyo@adst.keio.ac.jp



看護医療学部だより

紅梅会会報第100号を迎えられたとのこと、誠におめでとうございます。すばらしい伝統とそれを継承、発展される皆様のご努力に敬意を表します。

さて、看護医療学部2013年後半の学部の状況についてお知らせ致します。
学部運営に関しては、10月から太田が学部長3期目を仰せつかり、新たな委員会体制でさまざまな活動が動き出しています。

2018年には慶應看護教育100年を迎えることになり、この大きな節目を、学部はもちろんのこと慶應における看護が世界にモデルを発信していける飛躍の機会としなければなりません。そのために、記念事業では歴史を知り、将来を展望できる記念誌を発行すること、またこれからの時代に求められる看護ベストプラクティスを生み出していくための研究教育の基盤づくりを行うことをめざしています。記念事業推進のための慶應看護100年記念準備委員会には藤村紅梅会長、茶園副会長、鎮目大学病院看護部長にもご参加いただいております。紅梅会主体で行っていただく募金活動は、看護医療学部をあげて協力させていただきます。

看護ベストプラクティス研究開発ラボラトリーでは、11月23日湘南藤沢キャンパス主催ORF（オープン・リサーチ・フォーラム於東京ミッドタウン）において、「ケアの創出：がんになってからの生き方」を開催し、参加者の皆様と意見交換を行うことができました。

学部教員も共同参画させていただいている大学病院看護部の文部科学省大学改革推進事業「看護職キャリアシステム構築」は最終年となり、学生の実習への効果をあげるなど事業成果がみられてきました。さらに成果の浸透に向け、引き続き看護部との連携をとらせていただきたいと思っています。

大学病院も最先端の高度医療の場を建設していく中、看護の実践、教育、研究が相互に高め合い、より質の高い看護実践家の育成ができるよう、かつ生涯にわたる学習環境体制を整備できるよう、学部、研究科、看護部との具体的な連係がますます必要になってくると思います。

改めまして、慶應看護教育100年の記念事業が成功するよう、皆様のご協力、ご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

（看護医療学部長　太田 喜久子）

東京六大学野球連盟

リーグ戦中の**看護師募集！**

一般財団法人　東京六大学野球連盟
（TEL）　03-3409-5610
（FAX）　03-3409-1221
（Email）　headoffice@big6.gr.jp

＜期　間＞ (春)4月12日(土)～6月1日(日)：毎土曜日・日曜日
(秋)9月13日(土)～11月2日(日)：毎土曜日・日曜日

＜時　間＞ 11：00～17：00
※試合時間により多少の変動あり

＜場　所＞ 明治神宮野球場

＜業務内容＞ 試合中は、救護室にて待機し、
選手・観客の負傷や疾病に対応する。

＜日　当＞ 20,000円　※交通費含む

第36回 研修会報告

2013年10月18日に第36回紅梅会研修会を行いました。今回は、慶應義塾大学看護医療学部1期生で、ケアプロ株式会社代表取締役の川添高志さんを講師に招き、「ワンコイン健診の挑戦―健診弱者を救うために―」と題してお話しいただきました。

川添さんは学生時代から起業に興味を持ち、経営コンサルティング会社や病院勤務を経て、2007年にケアプロ株式会社を設立されました。講演の冒頭では、ケアプロの紹介映像「ワンコイン健診の挑戦」が流れ、会社の取り組みや熱意を大いに感じました。

中学・高校時代の家庭環境の変化や家族の入所していた介護施設の現状から、社会に必要とされる仕事をしていくこと、そして経営がサービスの質に直結していることを実感し、看護・介護の視点から医療と経営を学ぶため、慶應義塾大学看護医療学部に入学されました。

大学時代のメイヨークリニックでの海外研修中に、スーパーマーケットで実施されていた簡易的な健康診断と治療の現場を見かけ、「手軽な医療サービス」を日本で実現したいと考えるようになったそうです。その後は経営コンサルティング会社でのインターンを経て、卒業後に就職した東京大学医学部付属病院では手軽な予防医療の必要性を強く感じ、患者さんのお話も参考にサービスの企画案を練ったというエピソードもお話しされました。

そして、ケアプロを起業した今、会社が目指している課題や解決策、今後目指すべき医療界の方向性について想いをお話しされました。起業を通して様々な壁を乗り越えてきた川添さんの確固たる信念が、お話の中からも垣間見える気がしました。

東京都中野区でたった一人で始めたワンコイン健診は、日本そして世界に貢献できる素晴らしい医療サービスとして広く知られるようになってきています。看護を学んだ人間が活躍する場は多様になってきており、慶應看護の出身者は多様化する様々な分野で保健・医療・福祉を先導する存在になっていくことが求められるように感じます。

参加者は昨年より若干少ない状況でしたが、ユニークで楽しい講演が盛会のうちに終わりました。川添さんの益々のご活躍を祈念すると共に、参加者の皆様、広報活動等にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

（学７回生　矢坂 泰介）

世代をつなぐ「Link age」 活躍する同窓生

看護職が関わる場は、医療現場のみならず企業や地域社会における保健福祉分野など多岐に渡り、紅梅会の方々も、スペシャリストあるいはジェネラリストとして、様々な分野で活躍されています。

今回は、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（ＣＬＳ）協会副会長を務め、都内の病院でＣＬＳとして活躍されている方をご紹介します。

子ども主体の家族中心医療を目指して

短９回生　原田　香奈

この度は、紅梅会会報に執筆の機会を頂きありがとうございます。私は看護短大を卒業して、慶應義塾大学病院小児外科病棟での５年間の病棟勤務を経て、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下、CLS）の資格取得のためアメリカに留学しました。現在は、CLSとして都内の病院に勤務し、チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会副会長を務めています。今振り返ると、学生の頃にピッツバーグでの看護研修に参加できていなければ、CLSという職業との出会いもなく、CLSとして働くこともなかっただろうと思います。

CLSは、小児医療において、「子ども・家族中心医療（Child and Family-Centered Care）」を目指し、子どもやご家族の不安や苦痛といった精神的な負担を最小限にできるよう、多職種と連携して心理社会的支援を提供する専門職です。子どもが自分の病気を知り、検査や手術、治療の必要性を理解して、主体的に医療体験に取り組めるようにサポートします。そして、入院している子ども達が少しでも安心して楽しく過ごせるように、様々な行事やイベントも企画運営しています。また、グリーフケアや死別時サポート、きょうだい支援、がんを患う親の子どもへの支援など、CLSの果たす役割や活動の場は小児病棟に限らず多岐に渡ります。

入院する子ども達に接していると、子どもが抱く様々な思いや子どもなりの考えに驚かされたり、気づかされたりと学びの日々です。子どもに病気や検査、手術の話をしたり、術後の経過や病状などを判断したりしていると、慶應義塾の看護教育と、慶應義塾大学病院で看護師として働きながら学んだ多くの知識や経験がとても役立っていると感じます。これからも、入院する子ども達の心に寄り添いながら、小児医療におけるCLSの活動や支援を少しずつでも広げていけたらと思っています。

学部生の活動

「クリスマスが持つたくさんの力を病院にも届けよう！」サンタ企画実行委員会

木々が光で彩られ始め、街が活気づき出す12月。街で流れるクリスマスソングを聞くとわくわくした気持ちになったり、はたまた心洗われるような気分になったり。色とりどりのイルミネーションを見ていると、思わず涙が出てしまったり。クリスマスには人の心を動かすたくさんの力があります。そんな中、街に繰り出すことができずちょっと寂しい思いをしている患者さんに対して、どうにかクリスマスを届けることはできないだろうか。そのような思いからサンタ企画は始まりました。慶應義塾看護短期大学の有志学生によって始められ、今年度で17回目を迎えたサンタ企画は慶應義塾大学病院内の冬のビックイベントとなってきています。

サンタ企画委員会は慶應義塾大学の公認団体として活動し、毎年看護医療学部の有志の学生が中心となってメンバーを務めます。当日は、参加学生がかわいいサンタ服やトナカイの格好に身を包み、病棟にいる患者さんに手作りカードを配ったり、小児病棟では人形劇をしたり、外来では手話や合唱を披露したりしました。そして、目玉となるのは慶應義塾大学内の音楽団体による生演奏です。各病棟をいくつかの音楽団体で回り、クリスマスソングを演奏します。今年はクラシックやジャズ、ポップスなど曲のジャンルが違った6つの音楽団体に参加していただき、病棟の希望に沿って様々な雰囲気のクリスマスを届けることができました。

今年度は委員会幹部全員がサンタ企画に参加したことのない中で、探り探りの企画、進行となりました。しかし、患者さんの中には「とてもよかった」とわざわざ声をかけてくださる方がいたり、病棟スタッフからは「毎年ありがとう、来年もお願いします」という言葉をいただいたりしました。また参加学生からは「届けるとはこういうことなのかと知った」などの嬉しいコメントがあり、双方の感動につながった有意義な企画になったのではないかと思います。

これからも17年間続いたサンタ企画が継続し、さらに学生の活動として、病院内に定着していきますよう、努力していきます。最後に、今年度サンタ企画にご協力くださいました、病棟スタッフのみなさま、先生方に心より御礼申し上げます。

（2013年度サンタ企画実行委員会代表　看護医療学部２年　宮本 紗代）

「ラオス・プライマリヘルスケア保健医療チーム活動プロジェクト」の紹介と学び

このプロジェクトは医学部・看護医療学部・薬学部合同（計15名）の海外研修プログラムです。ラオスでの現地研修の三か月前から行われる文献・講義による事前学習と現地研修、研修後のまとめの三段階で構成されています。

事前学習ではグループワークを通してラオスにおける「ニーズ」と「アセッツ（強み・長所）」を調べ、開発援助を考えました。現地のラオスでは、JICA（独立行政法人国際協力機構）、UNICEF（国連児童基金）、WHO（世界保健機関）等の保健医療支援活動や現地医療機関等の見学を行い、プライマリヘルスケア支援活動の実際を学びました。また、ラオス南部の農村、ガンドン村に一泊のホームステイをおこない、その生活や習慣、文化に触れ、健康問題について考えました。村の小学校では事前に作成した教材を用いて、歯磨きや手洗いなどの健康教育も行いました。ラオス保健科学大学の学生とのカンファレンスでは、三学部それぞれの学生が「コミュニティケアの教育」について発表し、医療系人材の開発について学びました。また、相互に伝統舞踊などを紹介し、文化交流も行いました。

研修後には、事前学習で考えた「ニーズ」と「アセッツ」や開発援助が、現地で実際を見て、感じたことでどのように変わったのかをまとめ、より効果的な保健医療チーム・アプローチについての考えを深めることができました。

プロジェクトに参加し、アセッツに注目し持続可能なその国らしい発展のための支援の必要性など、国際保健におけるチーム・アプローチについて学ぶことができました。約四か月という長期間を共に同じ目標を持って活動したので、それぞれの学部の異なる視点からの意見を知ったり、日本の医療教育システムの在り方など、一歩踏み込んだ話題について意見交換することができました。これにより三学部の深い交流の機会となったと思います。研修後も交流会を開くなど、こうして築かれたつながりは大切な財産となっています。10月には仙台で開かれた第6回保健医療福祉連携教育学会にてポスター発表を行い、さらなる学習の機会にもなりました。このプロジェクトに参加したことは私にとって、とても貴重な経験となったと考えています。

（看護医療学部３年　吉田 雅葉）

同窓会情報

68 回生　小鮒　政子

私たち厚生女子学院第 68 回卒業生は、全員が還暦を過ぎる今年、第 20 回目のクラス会を、群馬県伊香保町の福一旅館で 2013 年 9 月 5 日に開催しました。富士山が世界文化遺産登録されるという記念の年に、「還暦記念のクラス会」ということで思い出深い年になりました。

参加者は、生徒 18 人とクラスアドバイザーのお一人である三浦英子先生の計 19 人。

三浦先生が私たちを評して「全員が仕切屋」というだけあって、懐かしい話・その後歩んだ道、現在の生活ぶりなどの話で盛り上がり、あっという間に一夜が過ぎました。40 年ぶりの人も、毎年紅梅会総会後で会っている人も、一同に顔を合わせれば皆、タイムトンネルを通ったように昔のままの仲間でした。「同級生って本当にいいものですね。」とか、「皆さんからエネルギーをたくさんもらいました。」と、後で何人かの人が幹事にお便りをくれましたが、本当にそうだなあと思いました。

さて、会場は「伊香保温泉」ですから、夜は黄金の湯と白金の湯という二種類の湯を備えた温泉に入り、朝は有名な伊香保の石段を散策。翌日、解散後の自由行動も、地元の保科美術館や夢二記念館に行った人、富岡製糸場や榛名湖周辺に足を伸ばした人など、群馬をたっぷり満喫していただけたようで何よりでした。

ところで、クラス会を何年毎に行うか難しいところですが、今回の話し合いでは、1 年では間隔が短かすぎて出る人が少なくなり、5 年では皆の消息が心配なので、3 年毎くらいが適当ではないかということになりました。また、開催は土日希望者と平日希望者とが分かれ、今回初めて木曜日にしてみましたが、もうひとかたのクラスアドバイザーの佐藤礼子先生をはじめ現役バリバリの人には平日はまだ出にくかったようです。

何はともあれ、猛暑や集中豪雨、竜巻など異変気象の多い中で、北は秋田から南は熊本の人まで、荒天を避け無事に伊香保に集まってクラス会が出来たことを感謝したいと思います。

被災地ツアーのクラス会

50 回生　伊藤　怜子

5 年ぶりのクラス会を宮城県南三陸町で開きました。東日本大震災の被災地です。幹事の私も大船渡市に住み、高台から大津波を目撃しました。幸い住居も家族も無事でしたが、沢山の身近な人たちを失くしました。

ふるさとは今、復興の途上です。その中で私は、助産師として子育て支援団体に関わり現職時代並みの忙しさです。この最中ですが 50 回生皆さまの再会コールに誘われ、クラス会開催に至りました。

開催して良かったです、とても。参加 13 名と少ないながら、51 年前の出会いがそのまま再現されたような、楽しい時間でした。

天気良し、ホテル良し、お料理良し、そして全員異常なし。しかし 2 日目の被災地バスツアーは…やはり言葉になりません。街がすっぽり消えた志津川町の廃墟と、語り部さんの言葉に、車中では会話もすっかり途切れ、涙する級友も…。

バスの停車した場所は南三陸町防災対策庁舎前。12 メートルの 3 階建物は鉄骨だけが残り、大津波のすさまじさを見せつけています。この屋上に避難した 30 人の中、生存者はわずか 11 人だったとか。若い女性職員が波にさらわれる寸前まで、避難放送を呼びかけていた建物でした。折鶴が舞う焼香台は、観光客に囲まれ近づけず、私たちは後方で三々五々手を合わせました。

クラス会は無事に閉会。年齢的な多少のアクシデントは想定内、のはずが想定外のお達者ぶりでした。ご参加頂いた皆さま、幹事の私にご協力頂いた副幹事の鈴木さま、本当に有難うございました。震災以来緩みっぱなしの涙腺も、皆さまの笑顔に元気回復です。

名簿委員会からのお知らせ

「慶應看護同窓会　紅梅会名簿」に関しまして調査ハガキの返信等ご協力ありがとうございました。調査ハガキの返信は3000通頂きました。各期連絡委員の方々のご協力により新たに消息が判明した会員からの返信も届いております。

また早々に名簿のお申込みを頂きありがとうございました。（名簿予約700名・名簿作成賛助金の申し込み400名）

調査ハガキのメッセージ欄に570名もの方々がメッセージを寄せてくださり、寄稿希望を30名の方々が申し出てくださいました。皆様の名簿に寄せる期待を感じております。

今回の名簿は皆様とともにつくり上げ、紙上では懐かしい方々と再開できる機会となると感じております。事務局で開催する委員会のたびにペン章と紅梅会の襟章、保存されている1934年(昭和9年)発行の紅梅会会報、その他の印刷物や写真から先輩の方々の活動の力強さにふれ、次の世代へつなぐものになればと活動しています。

なお、発送が早まり3月末にはお手元にお届けできることになりました。名簿の予約をされていない方で、名簿購入を希望される方には4月以降は4800円で販売いたします。また、5月11日（日）の紅梅会総会当日に限っては、3800円で販売致しますので、総会にご出席の折にご購入ください。購入申し込み先：(0120 － 16 － 8556)　　（54回生　橋本 美智子）

慶應看護同窓会 紅梅会 事務局より

住所・氏名等に変更のある方は事務局までご一報ください。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いいたします。

在室時間　月・木曜日 13時～17時　　電話・FAX　03－3341－8116

今回の名簿作成に伴い、下記のように多くの方の訃報がご家族や回生幹事の方から寄せられました。ご冥福をお祈りいたしますとともに、ご協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。　　（68回生　浅田 頼子）

訃　報

4回生	小林　チヨ(旧姓吉野)	平成7年8月9日
助 5回生	中久喜静子(旧姓荒川)	平成21年
7回生	澤田　とよ(旧姓草刈)	平成17年4月30日
11回生、助9回生	立川　種子(旧姓中島)	平成22年12月16日
助10回生	井上　滝江(旧姓齋藤)	平成18年6月
12回生	星野　マツノ(旧姓大門)	平成20年7月9日
13回生	内山　鶴江	平成16年12月3日
14回生	片見　喜代(旧姓沼尻)	平成17年1月1日
14回生	酒井　婦志恵(旧姓鈴木)	平成19年8月18日
15回生	小倉ふみ子(旧姓熊沢)	平成25年2月16日
15回生	渡辺　静枝(旧姓堀越)	平成22年1月20日
助13回生	鶴田　辰子(旧姓川上)	平成23年12月20日
16回生	加藤　喜代(旧姓伊藤)	平成20年1月28日
16回生、助14回生	倉持　雪江	平成25年1月6日
16回生	金子　たか(旧姓須藤)	平成25年4月22日
16回生、助14回生	原口　いさ	平成21年4月30日
17回生、助15回生	清水　愛子	平成19年4月28日
17回生	森　フジ(旧姓三浦)	平成22年1月
17回生、助15回生	森谷　房子(旧姓野原)	平成16年12月30日
18回生	相川　雪子(旧姓榊原)	平成22年12月8日
18回生	市島　要子(旧姓玉木)	平成25年1月12日
18回生	中溝マサイ(旧姓大河内)	平成25年8月22日
18回生、助16回生	北條　行子(旧姓樋口)	平成23年4月8日
18回生	松根タツイ(旧姓渡辺)	平成16年
助16回生	大島みどり(旧姓円山)	平成10年9月19日
19回生	榎本　ヌイ(旧姓芹沢)	平成25年4月3日
19回生	小山　はる(旧姓滝野)	平成25年1月3日
助17回生	小俣　裕子(旧姓上條)	平成20年3月
助17回生	木山　福子(旧姓大久保)	平成19年8月8日
20回生	植村らく子	平成18年11月20日
20回生	小島　政子(旧姓前川)	平成20年9月
20回生	田口かつ江(旧姓坂本)	平成21年10月25日
20回生	中村　やす(旧姓前川)	
20回生	降旗　みつ(旧姓木崎)	平成19年7月13日
20回生、助18回生	山口　なみ(旧姓堀口)	平成25年8月14日
21回生、助19回生	青木　はる(旧姓竹内)	平成23年8月24日
21回生	小澤　節(旧姓出口)	平成24年7月
21回生	小暮やす子(旧姓遠藤)	平成19年9月27日
21回生	鈴木　愛(旧姓武笠)	平成21年1月
助19回生	斉藤　よし	平成21年
助19回生	富谷　みつ(旧姓村井)	平成20年7月5日
22回生、助20回生	小池　敏子	
22回生	多加谷やす子(旧姓原)	平成18年12月8日
22回生	藤井　魚子(旧姓岡部)	平成19年10月14日
23回生	大村　常子(旧姓三好)	平成23年
23回生	下瀬　うめ(旧姓佐々木)	平成25年10月9日
助21回生	小玉　照子	平成21年1月19日
助21回生	矢田　秀子	平成20年12月
24回生、助22回生	鴨沢美和子(旧姓佐藤)	平成25年8月8日
24回生	砂川　静江(旧姓石井)	平成17年
助22回生	岩森　ゆき(旧姓渡辺)	平成24年6月29日
助22回生	永瀬　うめ(旧姓庄司)	
25回生	阿部　静(旧姓市村)	平成19年3月10日
25回生	坂本　澄江(旧姓石橋)	平成19年12月
25回生、助23回生	中谷　直子(旧姓樋口)	平成25年2月6日
助23回生	青野テル子(旧姓神原)	平成21年1月22日
助23回生	坂本　久子(旧姓内田)	平成20年11月9日
26回生	栗原しづ子(旧姓久保)	平成19年3月15日
28回生	江川　豊	平成24年6月29日
28回生、助26回生	野澤　艶子	平成24年4月15日
30回生	高島瑠璃子	平成25年8月18日
31回生	保苅　トミ(旧姓小林)	平成25年8月26日
48回生	大槻　秀子(旧姓田口)	平成23年7月
48回生	佐々木敬子(旧姓石井)	平成25年4月3日
51回生	ロセリーナ小野美津子(旧姓小野)	平成20年12月
56回生	栗原　智子(旧姓辻)	平成24年5月29日
73回生	高野とし子(旧姓大滝)	平成25年5月8日
89回生	矢島　千晴(旧姓前田)	平成25年6月26日

名簿作成にあたり寄せられた訃報情報で、今回掲載できなかった方は次号に掲載させていただきます。

編集後記

皆さまのご協力を得ながら、第100号の会報を無事お届けすることができました。

昨年5月の総会で承認を受けて「慶應看護同窓会　紅梅会」と名称が変更されましたが、会誌としての名称は親しまれてきた「紅梅会会報」として残していくこととなりました。近年のパソコンやスマートフォンなどの普及に伴い、情報の伝達は迅速になり、同窓生同士の情報交換も簡便になっております。その中で、会員の皆さまのニーズに合わせた会報のあり方を検討し、同窓生のつながりに貢献できるような会報を作成していきたいと思います。　　編集委員　関口 梓